

令和2年 湖西市議会 12月定例会

## 市長 所信表明

令和2年 11月 27日

皆様、おはようございます。

令和2年12月湖西市議会定例会が開催されるにあたり、市政運営について、所信を述べさせていただきます。

このたび、引き続き市長という重責を担わせていただくこととなりました。この4年間、毎日があっという間で、辛く苦しいことも多くありましたが、元・中日ドラゴンズの星野仙一さんの、「迷ったら、前へ。苦しかったら前に。つらかったら前に。後悔するのはそのあと、ずっと後でいい。」という言葉が胸に、前を向いて進んできました。

引き続き、初心を忘れず、市民の皆さまとともに、「職住近接」による湖西市の持続可能な発展に取り組みたいと思います。

(1期4年のふりかえり)

ここに、今後の市政運営の所信を述べるにあたり、まずは、4年間を振り返ってみたいと思います。

平成28年12月、市長に就任以来、「全力投球」をスローガンに、子育て・教育は「幸福度日本一のまち」、まちづくりは「人口減少に歯止めをかけ、活気あるまち」、福祉は「日本一思いやりのあるまち」、防災は「いのちを守る防災」、産業は「エネルギッシュなまち」、この「湖西市の5つのまちな姿」を実現すべく、市政の運営に取り組んでまいりました。

(幸福度日本一のまち)

1つ目の「幸福度日本一のまち」で、いち早く取り組んだことは、子育て世代として、子育て支援充実のための、中学生までの医療費の無償化でした。就任直後の平成29年度から中学生まで無料とした医療費は、平成30年10月から高校生までと、無償化の対象を拡大いたしました。

そして、女性活躍の一助となる待機児童の解消に向けて、新居幼稚園・岡崎幼稚園のこども園化を加速するとともに、民間事業者による保育園等の開設誘致を進めてまいりました。結果、新たに私立のこども園1園と小規模保育園2園が開園し、さらに令和4年の開園に向け、私立保育園2園が準備を進めておられます。現在、幼稚園部を除いた定員数は、平成28年12月と比較して256人増加しており、令和4年4月開園予定の2園を加えると382人の増加となっています。

また、幼稚園、小・中学校においては、今年度からエアコンの使用が可能となり、近年の猛暑の中においても、より安全・快適に学校生活を送ることができるようになりました。加えて現在、「GIGAスクール構想」に

向け着実に準備を進めており、今年度中には全ての小・中学校において児童・生徒に1人1台の学習用コンピュータを配備するとともに、クラス全員が一度にアクセスしても利用可能な高速大容量の通信ネットワークを整備します。来年4月からは、新たな生活様式・時代に対応したICT教育を推進してまいります。

スポーツにおいては、「東京2020オリンピック・パラリンピック」に向け、スペイン卓球代表の選手団が平成29年と令和元年にアメニティプラザで事前のトレーニングキャンプを実施しました。子どもたちへの卓球教室や、デンソー卓球部との国際親善試合の実施など、市民の皆様のオリンピックやスポーツ、健康増進に向けての機運醸成に大きく貢献いただいています。1年延期となったオリンピックですが、来年の6月23日には、57年ぶりの聖火リレーが、静岡県内は新居関所からスタートします。湖西市にゆかりのある聖火ランナーの姿を、しっかりと目に焼き付け、湖西市をあげて、みんなで応援したいと思います。

(人口減少に歯止めをかけ、活気あるまち)

2つ目の「人口減少に歯止めをかけ、活気あるまち」では、昼夜間人口差の解消と定住化促進のため、「職住近接」による、ゆとりのあるライフスタイルを提案し、「就職」「結婚」「定住」という3つのライフステージに合わせた施策を展開してまいりました。

「就職」では、「わーくわく！湖西で新生活奨学金返還支援制度」を市内14企業のご協力をいただき、本年4月からスタートしました。「結婚」では、「新婚さんこさいへおいでん新生活応援金」を平成30年10月からスタートし、現在までに127組の新婚さんからの申請をいただき、中には直接「隣の市と迷ったけど、住む環境に加えて、この制度があったから湖西市に住むことにした」と言ってくれた新婚さんもいらっしゃいます。「定住」では、「住もっかこさい定住促進奨励金」を令和元年10月からスタートし、現在までに74件の申請をいただき、新婚さん、住もっか合わせ、約200人の方が市外から湖西市に転入されました。この3つの制度は、現在約7,300人が登録するLINEの湖西市公式アカウントや、新所原駅に設置したデジタルサイネージ、ポスターでの周知、市内企業の社内報を活用させていただいた情報発信、今年度はさらに、WEBサイトを活用した、三河地区へのリスティング広告も行った結果、5千人以上の方が湖西市の移住定住施策である「新婚さん、住もっか等」の閲覧をしたという報告もいただきました。これにより、さらに広く湖西市の魅力や定住化に向けた施策を

知っていただけたものと考えております。また、若手職員の発案により、オリジナルの婚姻届・出生届を作成し湖西市のイメージアップと周知に繋がった「ハッピーアニバーサリー事業」では、平成30年に作成した結婚・出産の思い出となる届出用紙が大変好評で、市内外からの申し込みや問い合わせをいただいております。

その他、住みやすいまちづくりへの取り組みとして、中心市街地の活性化、高齢化や人口減少等に対応したまちづくりを進めるため、立地適正化計画を策定中です。今年度中には、総合計画と合わせ策定し、中長期的な土地政策を展開していきたいと考えています。

（日本一思いやりのあるまち）

3つ目の「日本一思いやりのあるまち」では、公共交通の利便性向上のため、コーちゃんバスの運用に加え、白須賀地区においてデマンド型乗合タクシーの運用を開始しました。現在は北部地区においても実証実験を行っております。また、昨年度に連携協定を結ばせていただいた、モネ・テクノロジー株式会社や市内企業と「湖西市 企業シャトル BaaS 研究会」を発足し、企業のシャトルバスを地域住民の皆様にご利用いただくという、全国初の次世代型モビリティサービスの社会実装、地域に優しい公共交通に向けた取組を進め、今月末からいよいよ実証実験を開始します。この取組は、国の「スマートモビリティチャレンジ」プロジェクトの中で全国16の先進パイロット地域の一つとして選ばれております。

医療福祉の分野につきましては、湖西病院において、病院事業管理者と院長の兼務を解消し、病院事業管理者が病院経営に専念できる体制づくりを進めました。平成29年12月より杉浦病院事業管理者を、昨年4月からは山崎経営戦略監を配置し、医療機能の充実と経営改善のため、昨年6月からは地域包括ケア病床の運用を開始しました。

加えて、障がい者福祉施設通所費の助成、精神障がい入院への助成拡大、認知症サポーターの養成など、限られた財源の中でも、出来る限り福祉の充実に力を入れてきたところです。

（いのちを守る防災）

4つ目の「いのちを守る防災」では、津波避難施設空白域を解消するため、平成30年3月に、住吉地区命山を、同じく6月には、日ヶ崎地区津波避難タワーが完成しました。現在、令和3年10月完成に向けて進めております高師山地区津波避難タワーが完成すれば、湖西市内の津波避難施設空

白域が解消されます。

消防の分野においては、平成 29 年から「はしご消防自動車」、「高規格救急車」、「消防指揮車」を配備するとともに、毎年 1 台ずつ消防団のポンプ車を更新してきました。また、昨年は、外国籍住民の多い本市の状況に対応するため、外国人緊急通報電話通訳、聴覚・言語障がい者の 119 番通報を可能にする Net119 緊急通報システムを新たに導入しました。

（エネルギーなまち）

5 つ目の「エネルギーなまち」では、産業振興の分野において、市長就任以来取り組んでまいりました浜名湖西岸土地区画整理事業、および関連する大倉戸茶屋松線の工事が、地権者・関係者の皆様のご尽力により、令和 5 年夏の操業開始に向け順調に進んでいます。また、先般 3 つのルート案が示されました浜松三ヶ日・豊橋道路（仮称）は、湖西市の防災・経済・観光等に大きなストック効果を持つ道路であり、早期事業化はもとより、市内へのインターチェンジの設置等、国土交通省はじめ関係機関に対し、市議有志をはじめ周辺自治体・関係者の皆様とともに、積極的な要望活動を続けてきています。

畜産業の振興においては、静岡県内最大、2 万 7 千頭の飼育頭数を誇る養豚業のため、豚熱のワクチン接種を実施するとともに、消毒の徹底、野生イノシシの侵入防止柵などの防疫対策を、国や県と連携しながら実施してまいりました。加えて、畜舎の密閉化や、市民臭気モニターの導入など、臭気対策事業も積極的に取り組んでまいりました。

商工業においては、市内企業の人材確保、事業承継、販路拡大など共通の課題について、商工会、職業訓練センター等と協力し、各種就職セミナーや業界研究フェア、シニア向け合同企業説明会など雇用対策も含めた取り組みを進めました。

農業分野においては、基幹水利施設や基幹農道の改修を行ったほか、農地の活用や保全のため、土地改良施設の整備や維持管理への支援を行いました。

環境の分野では、資源循環型社会を構築するため、環境センターでのごみ焼却再開に向けて、長寿命化総合計画の策定、生活環境影響調査等を実施し、PFI 手法による施設再稼働の準備を進めてまいりました。

観光・シティプロモーションの分野につきましては、広域 DMO である「浜松・浜名湖ツーリズムビューロー」に職員を派遣し、DESTINATION キャンペーンに参画するなど広域的な事業を推進しました。また、関所や

東海道の宿場などの歴史遺産、湖西連峰・浜名湖といった自然環境、さらには牡蠣のプリ丸や魚のつかみ取り体験など、湖西市の魅力を市内の方々に広く知っていただけるような事業展開とPR活動に取り組みました。

また、平成30年度に創設した「湖西市ふるさと大使」、これは、現在10人と1組の方に委嘱をしており、ライブなどご自身の活動や出演番組、SNS等で湖西市のおすすめスポットやお店など、魅力の発信や知名度の向上、来訪者の増加に大きな貢献をいただいております。

さらに、観光資源の活用による観光客の誘致促進のため、新居関所の構内に江戸時代後期の歴史的景観をよみがえらせる「女改之長屋」の復元工事を実施し、昨年度完成しました。来館者が楽しく学べるよう、タブレットによるVRを取り入れたアプリを作成し、関所風景の再現の様子が、テレビなど報道にも取り上げていただきました。

ふるさと大使やSNS等の活用により多くの「湖西市の魅力」を積極的に発信し、市外への転出者、ふるさと納税を寄付していただいた方々と継続的な繋がりを持つ機会や、新たな関係創出のきっかけづくり等を行い、更なる知名度の上昇、交流人口の増加、稼ぐ力の強化などへつなげることができていると考えています。

#### （新型コロナウイルス感染症への対応）

以上が、4年間を振り返っての主な取り組みですが、何より目下の最大の関心事は、現在も収束していない「新型コロナウイルス感染症」との戦いです。

緊急事態宣言や特定警戒都道府県などが指定された際、愛知県と隣接する湖西市としましては、何よりも市民の皆様の安全・安心を最優先とし、県内で先駆けて休業要請とセットで「コロナに負けるな、湖西市新型コロナウイルス感染症対策協力金」を創設しました。加えて「感染拡大防止サポート補助金」、「小規模企業者エール給付金」、「水道基本料金の免除」「プレミアム商品券」など、関係機関等からのご要望などに基づき市独自の施策を実施しております。また、PCR検査を行うための「地域外来・検査センター」を8月12日に設置するとともに、市民・議員の皆様をはじめ多くのご支援ご協力をいただきながら「新型コロナウイルスこさい(531)助け合い基金」を創設しました。昨日までで、ガバメントクラウドファンディング、窓口や郵送による寄付を合わせた総額は310万5,100円となっており、ご厚意に対し、湖西市を代表して心からお礼を申し上げます。

これまでの4年間の活動においては、既に公約が実現できたもの、現在進行形のもの、制度設計や相手方関係先との調整など、時間がかかるものもあります。産婦人科の誘致もその一つであり、平成30年には市有地を無償で貸し付けることができる制度を創設しましたが、残念ながら現時点で産婦人科医院の誘致は実現できておりません。道半ばのものについては、今後も継続して、前向きに取り組んでまいります。

#### (職住近接への4本柱)

さて、これより、2期目の抱負について申し上げさせていただきますが、目指すところは、引き続き「湖西市の持続可能な発展のために、住み続けたいまちづくり」であります。昼夜間人口差の解消と定住促進、そのための『職住近接』を進めていく考えは、従来から一貫して変わるものではありません。

今回、この『職住近接』を引き続き推進するため、大きく4本の柱を示させていただきます。1つ目は「安全・安心、医療福祉」、2つ目は「子育て・教育の充実」、3つ目は「産業の振興～モノづくりは人づくり～」、4つ目は「観光・シティプロモーション」です。

#### (安全・安心、医療福祉)

1つ目の「安全・安心、医療福祉」は、先ほども申し上げさせていただいた「新型コロナウイルス感染症」への対応が、目下の最優先課題です。現在、第三波とも言われる感染拡大が起っています。湖西市においても、現在までに12名の感染者の方が発表されていますが、幸いなことには、クラスターなど、大きな広がりはありません。これも、感染拡大防止のため、日々奮闘いただいている医療・福祉関係者、その他市民生活を支えてくださっている関係者の皆様、そして何よりも、市民一人ひとりの感染防止へのご理解とご協力のおかげであると、湖西市を代表して、改めて感謝を申し上げます。

これから寒い季節を迎え、発熱等の症状のある方が増加するのに備え、医師会の皆様と協力し、PCR検査の体制を強化するとともに、市独自の相談窓口を設置することとしております。

現在まで、出来る限りの対策を行ってきたつもりではありますが、これらの対策で必要十分であるとは考えておりません。まだまだ行政として行えることは、社会経済情勢に合わせ、国や県・医師会・商工会ほか関係機関と連携を密にし、迅速に、かつ、柔軟に必要な対策を行っていきたいと考えています。

今回の一連の新型コロナウイルスへの対応から、社会生活全般において、世界的に大きな変革が起きています。この「新しい生活様式」に我々行政も迅速に対応していかなくてはなりません。

市民サービスの分野において、「湖西市デジタルトランスフォーメーション推進本部」を立ち上げ、公共施設のオンライン予約、市税等支払いのキャッシュレス化、LINEやAIなどを活用した市民サービスの提供、押



印の見直しによる行政手続きのオンライン化など、サービスの向上に向けたデジタルスマートシティの実現を目指してまいります。

災害対策の分野においては、市民の命を守ることを第一に、ハード・ソフト対策を組み合わせた対策を推進してまいります。ハード事業としては、引き続き高師山地区津波避難タワーや上田町地区の命山の整備を進めてまいります。ソフト事業としては、各避難所におけるコロナウイルス感染症対策を踏まえた避難所運営マニュアルの整備を進め、自助・共助・公助による災害に備える意識の醸成を図ってまいります。

環境分野では、令和6年1月末までに、環境センター焼却施設の工事による再稼働事業を着実に進め、市民の衛生環境の維持・強化を図ってまいります。

公共交通の分野においては、デマンド型乗合タクシーの今後2年以内の市内全域での本格運行を目指すとともに、企業シャトルBaaS事業を市内企業と連携のもと、今月末からの実証実験を重ねることで、運転免許を返納しても、病院や買い物に行きやすい、次世代型公共交通の導入による利便性の向上を進めてまいります。

湖西病院においては、地域包括ケア病床のさらなる充実や、病棟化による高齢化の時代に即した回復期医療の充実、白内障の手術の実施拡大、地域連携外来や緩和ケア外来の設置などにより、地域医療の拠点として、各地区における地域包括ケアシステムの構築と合わせ、引き続き市民の皆様が安心して医療を受けられるよう、医療機能の充実と経営改善を進め、さらなる繰入金金の減少に努めてまいります。

#### (子育て・教育の充実)

2つ目の「子育て・教育の充実」では、引き続き待機児童の解消に向け民間事業者等による保育園・こども園の新設や施設整備を積極的に支援してまいります。

老朽化の進む小・中学校の校舎については、施設の改修やトイレの洋式化を順次進めるとともに、よりおいしく安全な給食に向け、給食センター化に向けた基本計画の策定を本年度よりスタートしております。また、「GIGAスクール構想」を進めることで、緊急事態においても、オンライン授業により、将来の湖西市を担う子どもたちの学びを止めることのないよう、教育環境を整備してまいります。

また、教育施設地域拠点構想に基づく小・中一貫教育の推進はもとより、人口減少に伴う中長期的な幼・小・中学教育施設の再編や、高校との連携、

地域が一体となったモノづくり人材育成についても、地域の方々や保護者・学校関係者との話し合いを重ね、未来を担う子どもたちの教育環境整備と、地域のコミュニティの拠点としての両立を図っていきます。

また地元で子どもを産み育てやすい環境を整備するため、現在、湖西病院では、機能連携として、高度急性期・急性期医療で不足する機能について、浜松市内など他の医療機関と積極的に連携を進めています。その一環として、他の医療機関等からの助産師の派遣により、分娩は機能の充実した医療機関で行いながら、分娩前後の妊産婦検診を湖西病院で行うなど、特に働いている方や、小さいお子さんがおられる妊産婦さんが、身近なところで検診が受けられるよう、引き続き新型コロナウイルスの状況を踏まえつつ、湖西市内への産婦人科医院の誘致と併せて、進めてまいります。

#### （産業の振興 ～モノづくりは人づくり～）

3つ目の「産業の振興」では、浜名湖西岸土地区画整理事業への支援および関連する大倉戸茶屋松線の整備を、令和5年夏の操業開始に向けて着実に進めてまいります。本事業により、千人規模の雇用創出が期待されており、加えて宅地・商業施設等の誘致や立地適正化計画による土地利活用へのインセンティブ、環境センターの再稼働に向けた取組等、一体的に行うことで、住んで働いていただくための環境を整備し、「職住近接」をいっそう進めてまいります。

湖西市は、世界の発明王「豊田佐吉翁」を生んだ発明・モノづくりの聖地です。市内企業との連携強化を図るため本年4月からテクニカルアドバイザーとして株式会社デンソーの加藤享嗣さんに就任いただき、商工会や中小企業など、よりきめ細かく意見交換を重ねていただいております。加えて、将来のモノづくり人材の育成と確保のため、10月よりプライムアースEV エナジー株式会社の彦坂昇さんに、学校と地元企業との連携強化を担う、モノづくり人材育成コーディネーターにご就任いただきました。モノづくりのまち・湖西市の産業を持続的に発展させていくため、地元企業や学校、発明クラブ、地域などが一体となった『モノづくり産業ネットワーク』を構築し、モノづくりを通じた人づくりと、モノづくり企業との連携を積極的に推進していきます。

また、今後の湖西市の産業振興において、女性活躍の推進は、引き続き非常に重要な位置づけとなっています。就業・労働意欲を持つ女性に対する再就職の支援や、性別等によらずに能力を活かせる職場づくりなど、女性も活躍しやすい、住んで働きたくなる環境を整備していきます。

更に、農業分野においては、引き続き中長期を見据えた農地改良や面的集積の推進、担い手の確保のための支援を、漁業においては、浜名湖・遠州灘ブランドであるアサリやシラス、海苔、牡蠣のプリ丸はじめ、水産物の安定供給や、経営の安定化による漁業者確保のための支援を、国や県とも連携して行っていきます。

畜産業については、豚熱の感染防止のため、引き続き消毒の徹底や、猟友会とも協力した野生イノシシの捕獲に取組み、さらに臭気対策への取組みとして、令和元年11月から試行している市民臭気モニターの成果を参考に臭気測定を実施し、臭気指数の規制基準の見直しに繋げ、引き続き畜舎の密閉化、デオマジックはじめ消臭剤散布等の臭気対策を実施する畜産事業者に対して、地域住民等の皆さまにも効果が実感できるように、こちらも引き続き国や県とも連携し進めていきます。

#### （観光・シティプロモーション）

4つ目の「観光・シティプロモーション」においては、引き続き湖西市を知っていただく、知名度を上げる施策を展開してまいります。本市には、浜名湖、新居関所、湖西連峰など豊かな観光資源があります。このすばらしい湖西市の魅力を、国や県、DMOとの連携のもと、広く全国に発信し、交流人口の拡大につなげていきたいと考えております。また、ふるさと大使の活躍とPR活動にも引き続き期待をしているところです。

そして何よりも、湖西市の魅力を生み出すのは、市民の皆さまの活気です。65歳からの健康の尺度となる「お達者度」では、湖西市は男性が2年連続で県内1位、女性が9位という、すばらしい実績をいただいています。引き続き、高齢者の皆さまはじめ、健康づくりへの各種サポート事業を積極的に進め、市民の健康増進、まちの活性化に取り組んでまいります。

活性化といえば、新・市民交流複合施設について、構想日本のご協力もいただき、無作為抽出による客観的な「市民会議」からのご提言をいただいております。本年度中に具体的な基本構想を策定する予定でした。新型コロナウイルスの影響により「市民ワークショップ」の開催を見合わせているのは残念ですが、社会経済情勢や市の財政状況、また市役所庁舎や防災センター、図書館、新居地域センターなど施設の老朽化も進んでおり、加えて来年4月には市役所近隣に湖西警察署も移転してこられることから、これらの諸条件を総合的に勘案しつつ、早期の再開を図り、幅広い世代が集まりたくなるような、市民交流複合施設のあり方について具体的な検討を進めてまいります。

(むすび)

これまで、2期目にあたり、4本の柱について申し上げさせていただきました。何よりも湖西市の持続可能な発展のためには、中長期的な政策として、繰り返しになるかもしれませんが2点、

①モノづくり人材の育成

②宅地や商業施設造成のための土地政策

があります。先ほどの「モノづくり産業ネットワーク」の推進や、立地適正化計画に合わせた土地利活用促進に対するインセンティブと合わせ、もちろん一朝一夕に実現できるものではありませんが、着実に進めていきたいと考えています。

結びにあたり、今年も10月30日、豊田佐吉翁の第57回顕彰祭が行われました。その際にトヨタ自動車の豊田章男社長は、「私たちは、豊田綱領を原点とする新しいフィロソフィーを取りまとめました。その中で、私たちの使命は『幸せの量産である』というところにたどり着きました。佐吉は織機を、喜一郎は自動車をつくったわけですが、二人が本当につくりたかったものは、それを使う人々の『幸せ』だったのではないかという想いに至りました。」と述べられました。その言葉に、私は非常に感銘を受けました。我々、行政に携わる者の仕事は、多岐にわたります。ともすれば、個人に与えられた業務をルーティン・機械的にこなすことだけに集中し、その先にある本当の目的を見失いがちです。仕事をするのが目的ではなく、何のための仕事なのかが重要です。章男社長の述べられたことを引用させていただくなら、我々の使命は、「市民の幸せのために」働かなければならないと考えます。

令和4年に湖西市は市制50周年を迎えます。既に若手のプロジェクトチームやKSLにおいて、地域の活性化に繋がる多くの事業を考えていただいております。これも一つのきっかけとして、これからの未来においても、湖西市が持続可能な発展を遂げるよう、引き続き「全力投球」で市政に取り組んでまいりますので、議会をはじめ、皆様方のご支援ご協力を、どうかよろしくお願い申し上げます。以上、私の2期目に当たっての所信とさせていただきます。

ありがとうございました。

(以上)